別冊１

松本市乗鞍観光センター再整備基本構想・基本計画（案）≪概要版≫

乗鞍観光センターは、施設の老朽化により再整備が必要となっています。一方で、施設の所在する乗鞍高原は、地域ビジョンとして「のりくら高原ミライズ」を策定し、ゼロカーボンパーク国内第１号に登録され、脱炭素先行地域にも採択されています。この先行ビジョンを基に、乗鞍観光センターの在り方を以下のとおり提案します。

コンセプト　**乗鞍高原の自然・魅力・活動と人をつなぐゲートウェイ**

のりくら高原ミライズ

現状・課題

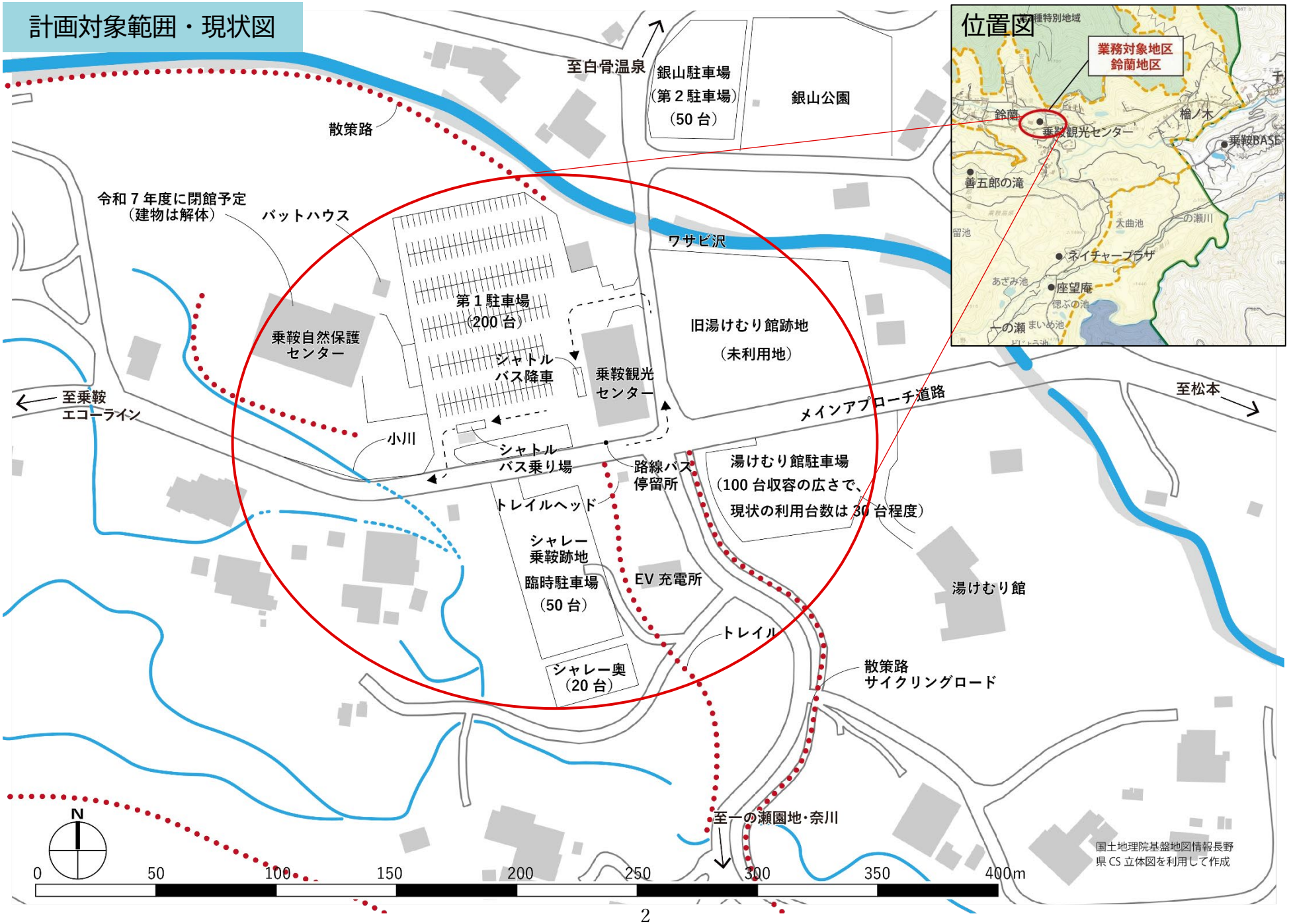
- **環境の危機**
  地球環境問題の影響や社会の変化等により、豊かな自然環境が失われる
- **暮らしの危機**
  少子高齢化、人口減少等により安心安全な暮らしが失われる
- **観光の危機**
  豊かな自然観光資源を活かしきれず、山岳観光地として維持できなくなる

取組み

1　乗鞍高原からはじまる地球環境問題解決
2　人と自然がつながる賑わいのある地域づくり
3　移動の障壁を取払う環境配慮型の二次交通システム構築
4　乗鞍岳を象徴とした世界に誇れる景観形成
5　四季を通じて人が絶えないトレイルづくり
6　ワーケーションの推進による新たな利用価値の創出
7　乗鞍高原の魅力を最大限に表現するプロモーション

基本方針	整備、取組内容
1　ゼロカーボンの取組みの推進と発信、体験の場	・建物のZEB化 ・取組みの実践、発信
2　観光、自然、歴史等のワンストップ総合案内、誘導拠点	・総合案内窓口 ・自然、歴史の紹介
3　乗鞍高原らしい自然共生型の交通結節点の創出	・環境に配慮した分散型駐車場 ・バスや二次交通のターミナル
4　周辺との連携、散策路のネットワーク化などによる人の流れの創出	・機能配置の工夫 ・周辺資源等との連携
5　人が楽しむ風景を表に出し、自然の中で過ごす楽しさの共有	・アクティビティを楽しむ人が見える外構、建築
6　自然を満喫できる場、雨の日に過ごせる場をつくり滞在時間を延長	・乗鞍岳の眺望や自然を活かせる外構、デッキ、建物の開口部
7　来訪者と地域住民の多様な交流の場	・多目的スペース、ワークスペースラウンジ、カフェ等の共用空間
8　四季を通じた施設利用、事業継続、適切な運営	・当事者意識の高い事業者による管理運営
9　魅力的な外観、使いやすく温かみが感じられるデザイン	・自然景観に配慮した外観 ・バリアフリー、ユニバーサルデザイン
10　使い方や将来の変化に柔軟に対応できる施設	・季節による使い方や将来の変化に対応する可変性をもつ建築

計画対象範囲・現状図


至白骨温泉
銀山駐車場
（第２駐車場）
（50 台）
銀山公園
散策路
令和７年度に閉館予定
（建物は解体）
バットハウス
ワサビ沢
第１駐車場
（200 台）
乗鞍自然保護
センター
シャトル
バス降車
乗鞍観光
センター
旧湯けむり館跡地
（未利用地）
至乗鞍
エコーライン
小川
シャトル
バス乗り場
路線バス
停留所
メインアプローチ道路
至松本
湯けむり館駐車場
（100 台収容の広さで、
現状の利用台数は 30 台程度）
トレイルヘッド
シャレー
乗鞍跡地
臨時駐車場
（50 台）
EV 充電所
湯けむり館
トレイル
散策路
サイクリングロード
シャレー奥
（20 台）
至一の瀬園地・奈川
N
0
50
100
150
200
250
300
350
400m
国土地理院基盤地図情報長野
県 CS 立体図を利用して作成

位置図
業務対象地区
鈴蘭地区
鈴蘭
乗鞍観光センター
檜ノ木
乗鞍BASE
善五郎の滝
大曲池
ネイチャープラザ
座望庵
あざみ池
一の瀬

機能配置

現状の駐車場利用と計画台数

・現状の必要台数を踏まえ計画台数を設定
・区画線を引くことにより効率的な駐車を計画

駐車場	現状の必要台数	計画台数
観光センター	200 台	5 台
シャレー跡地	50 台	110 台
シャレー奥	あまり使われていない	20 台
湯けむり館	30 台	100 台
旧湯けむり館跡地	あまり使われていない	60 台
銀山公園 P	50 台	65 台
合計	330 台	360 台

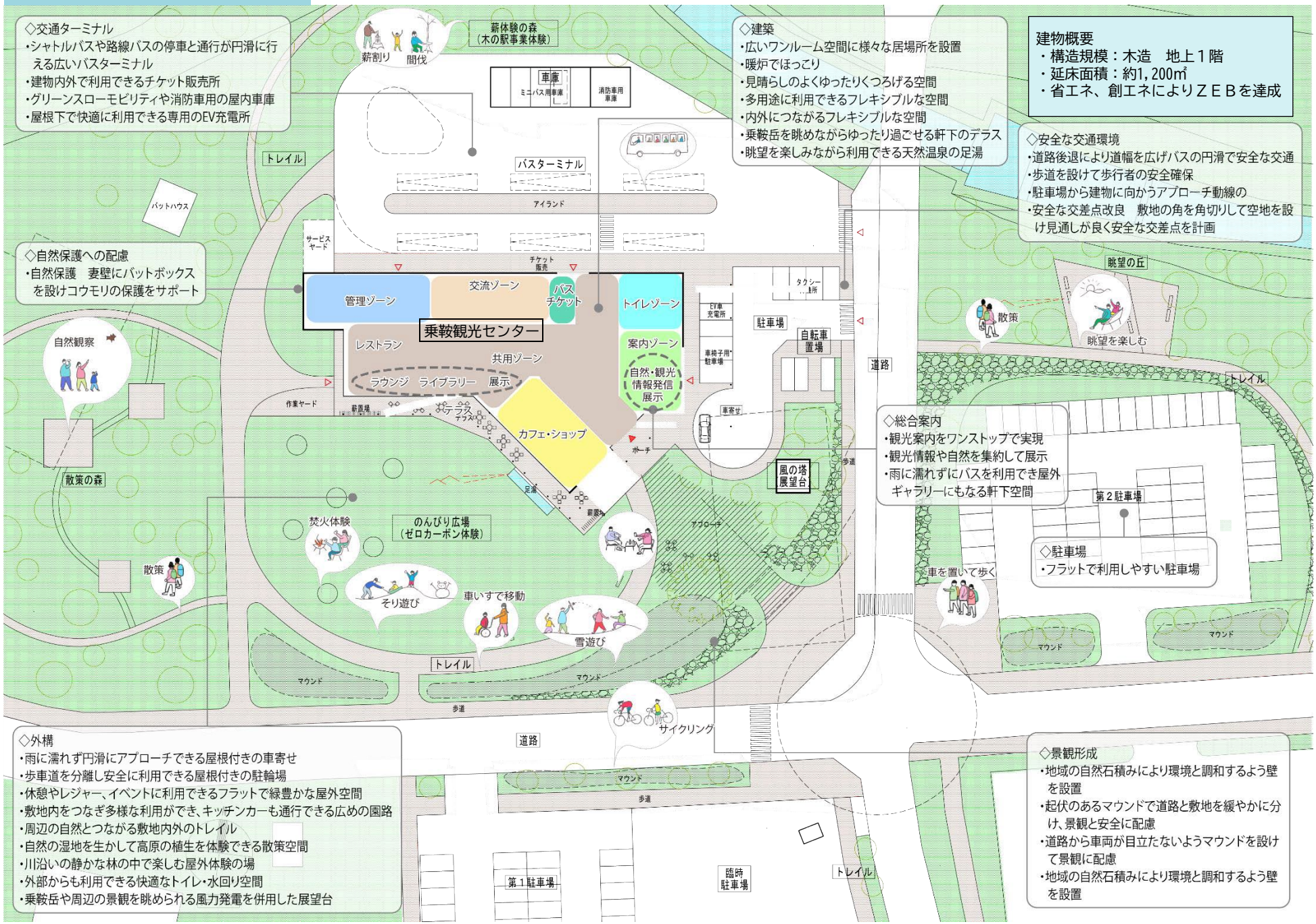
基本構想：土地利用の方向付け

1 乗鞍観光センター再整備の立地は現敷地を基本に計画
2 敷地周辺に園地や散策路等による憩いの場、滞在の場の創出
3 景観的に支障のない場所で利便性の良い場所にバスターミナルを配置
4 適所に乗鞍岳の眺望の場を創出
5 駐車場は、視界に入らないよう配置、植栽等による景観配慮
6 バスのアクセスに伴う林道の拡幅、配置のセットバックによる安全な交通環境の創出
7 交差点は食い違いをなくす道路形状への改善、長期的にはラウンドアバウトの導入等を検討
8 湯けむり館の改築時には、乗鞍岳の眺望に優れた場所を検討
9 乗鞍岳の眺望を阻害している電柱・電線等は将来地中化等検討

基本計画：導入機能を4つに集約

1 ゼロカーボン拠点機能
・建物のZEB化
・取組みの実践・体験の発信等
2 案内・誘導拠点機能
・総合案内、誘導窓口
・自然の紹介、情報の表示等
3 交通拠点機能
・分散型駐車場
・バス、EV等の交通ターミナル
4 滞在、交流拠点機能
・人の流れをつくる配置
・人が楽しむ風景の創出
・乗鞍岳の眺望を活かした場
・来訪者と地域との交流の場
・適切な管理運営
・変化や更新に対応できる建物

施設計画


◇交通ターミナル
・シャトルバスや路線バスの停車と通行が円滑に行える広いバスターミナル
・建物内外で利用できるチケット販売所
・グリーンスローモビリティや消防車用の屋内車庫
・屋根下で快適に利用できる専用のEV充電所
◇自然保護への配慮
・自然保護　妻壁にバットボックスを設けコウモリの保護をサポート
◇建築
・広いワンルーム空間に様々な居場所を設置
・暖炉でほっこり
・見晴らしのよくゆったりくつろげる空間
・多用途に利用できるフレキシブルな空間
・内外につながるフレキシブルな空間
・乗鞍岳を眺めながらゆったり過ごせる軒下のデラス
・眺望を楽しみながら利用できる天然温泉の足湯
建物概要
・構造規模：木造　地上１階
・延床面積：約1,200㎡
・省エネ、創エネによりＺＥＢを達成
◇安全な交通環境
・道路後退により道幅を広げバスの円滑で安全な交通
・歩道を設けて歩行者の安全確保
・駐車場から建物に向かうアプローチ動線の
・安全な交差点改良　敷地の角を角切りして空地を設け見通しが良く安全な交差点を計画
薪体験の森
（木の駅事業体験）
薪割り
間伐
車庫
ミニバス用車庫
消防車用車庫
トレイル
バスターミナル
アイランド
バットハウス
サービスヤード
チケット販売
管理ゾーン
交流ゾーン
バスチケット
トイレゾーン
乗鞍観光センター
レストラン
共用ゾーン
ラウンジ　ライブラリー　展示
案内ゾーン
自然・観光情報発信展示
EV車充電所
駐車場
車椅子用駐車場
自転車置場
タクシー乗降所
道路
眺望の丘
散策
眺望を楽しむ
自然観察
散策の森
作業ヤード
薪置場
テラス
カフェ・ショップ
ポーチ
車寄せ
歩道
風の塔
展望台
◇総合案内
・観光案内をワンストップで実現
・観光情報や自然を集約して展示
・雨に濡れずにバスを利用でき屋外ギャラリーにもなる軒下空間
第２駐車場
◇駐車場
・フラットで利用しやすい駐車場
車を置いて歩く
焚火体験
のんびり広場
（ゼロカーボン体験）
アプローチ
散策
そり遊び
車いすで移動
雪遊び
マウンド
サイクリング
◇外構
・雨に濡れず円滑にアプローチできる屋根付きの車寄せ
・歩車道を分離し安全に利用できる屋根付きの駐輪場
・休憩やレジャー、イベントに利用できるフラットで緑豊かな屋外空間
・敷地内をつなぎ多様な利用ができ、キッチンカーも通行できる広めの園路
・周辺の自然とつながる敷地内外のトレイル
・自然の湿地を生かして高原の植生を体験できる散策空間
・川沿いの静かな林の中で楽しむ屋外体験の場
・外部からも利用できる快適なトイレ・水回り空間
・乗鞍岳や周辺の景観を眺められる風力発電を併用した展望台
第１駐車場
臨時駐車場
◇景観形成
・地域の自然石積みにより環境と調和するよう壁を設置
・起伏のあるマウンドで道路と敷地を緩やかに分け、景観と安全に配慮
・道路から車両が目立たないようマウンドを設けて景観に配慮
・地域の自然石積みにより環境と調和するよう壁を設置

外観・内部空間のイメージ

東エントランス側上空からの俯瞰イメージ

十字路側からのアプローチイメージ

暖炉のあるエントランスホールから外部がみえる開放的なロビー空間のイメージ

概算費用

・建築工事　　約８２０，０００千円
・外構工事　　約３４７，０００千円
・除却工事　　約１００，０００千円
　合計　　約１，２６７，０００千円

スケジュール

・令和８年度中の供用開始予定
　なお、ＰＦＩ導入も検討しています。